

## 論文審査の結果の要旨

令和2年 7月31日

申請者： 楚 喬

論文題目： 「対話的問題提起学習」による教師研修の実践研究

—中国 D 市の小・中・高校の日本語教師を対象にして—

本提出論文は、中国の中等教育におけるトップダウン型教師研修の限界を克服して、中国の中等教育を担う日本語教師を対象に、完全なボトムアップ型教師研修を提起することを目的となされた3つの実証研究をまとめたものである。この研究テーマは、申請者が16年間中等教育日本語教師研修を担当してきた経験から編み出されたものであり、申請者の現場改善につながる研究でもある。

行政主導で広く行われている現行の教師研修の多くは依然としてトップダウン型の様式で、研修テーマが主催者から提示され、現場のニーズに対応できないことが多い。これに対して、本研究が提案する「対話的問題提起学習」を中核とするボトムアップ型の教師研修は、現場に立つ教師たちが自らの手で自分たちの問題を直接取り上げて話し合う点がきわめて独創的である。そして、教学を主とした現場の問題解決のみならず、教師たちの生きる意味が、研修を通して創造できるものであることを、本研究は、受講生によって提起された問題、及びその問題をめぐる研修参加者間の対話、対話後の受講生による考察をデータとして実証的に明らかにしている。従来の教師研修に関する研究では研修の効果を量的に検証するものが多かったが、本研究では研修参加者間の対話の内容を質的に分析したり、受講生の受け止めを半構造化インタビューで収集しそれらを KJ 法にて一つも残さず分類し体系化したりして、当事者の声を生き生きと、かつ緻密で網羅的に記述しており、ここに新規性があると認められた。

本研究は、中等教育における日本語学習者が増加している中国の教育現場に対して実践的な意義が大きく、還元力の高い研究であると評価された。

今後の課題として、対話全体の分析や、研修参加者間の対話に寄与した講師の役割を明らかにすることなどが挙げられており、研究のさらなる発展が期待される。

口述審査は、令和2年7月27日（月）城西国際大学東金キャンパスから Webex オンラインにて実施した。申請者は、論文の内容や意義を要領よくまとめ、所定時間内で簡潔に説明した。研究の構成が整理されたスライドはわかりやすく、特に研修参加者間の対話をどのように分析していたかについての副査の疑問に対して上手くまとめられていた。また、審査員の質問に対しても、具体例を論文から引きながら論点を明確にすることができた。本研究の成果をどのような方法で中国中等教育日本語教師研修に生かすかという質問にも、自分の考えをはっきり述べており、教師研修の実践者であることの自覚がうかがえる回答であった。

提出論文も口述審査も博士の学位に十分値するものと判断して合格とした。

審査員（主査） 野々口 ちとせ

審査員（副査） 林 千賀

審査員（副査） 岡崎 眸

審査員（副査） 陳 岩 （大連外国語大学教授）